



# Kekkaku 結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 98 No.5 July-August 2023

- 原 著** 133…… 新型コロナウイルス感染症によって、塗抹陽性肺結核の罹患リスクが高まる  
■康 史朗他
- 139…… 肺結核の診断時排菌数と関連する背景因子についての後方視的検討 ■尾下豪人他
- 症例報告** 145…… 関節リウマチに対するトシリズマブ治療中に発症した肺結核および二次性の器質化肺炎の1例 ■伊藤昂哉他
- 151…… 誤嚥性肺炎として初期対応され、非結核性抗酸菌症の検査・診断が遅れた1例  
■谷江智輝他
- 155…… カナマイシン筋注製剤による皮疹の既往がありアミカシン硫酸塩吸入用製剤でも皮疹をきたした肺 *Mycobacterium avium* complex 症の1例 ■石田有莉子他
- 活動報告** 159…… 潜在性結核感染症の外国人留学生に対する服薬支援  
— 専門学校における結核集団感染事例 ■永石真知子他
- 165…… 外国生まれの小児を発端とした結核集団感染事例 ■森本哲生他
- 総 説** 169…… 肺非結核性抗酸菌症治療におけるキノロンの意義 ■藤田昌樹
- 委員会報告** 173…… 多剤耐性結核治療の短期化，結核医療の基準に18カ月未満の治療を含める方向について  
■日本結核・非結核性抗酸菌症学会 治療委員会，抗酸菌検査法検討委員会
- 177…… 成人肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解 — 2023年改訂  
■日本結核・非結核性抗酸菌症学会 非結核性抗酸菌症対策委員会/  
日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会
- 会 報** 189…… 定例理事会議事録（2023年度第1回）

## 新型コロナウイルス感染症によって、塗抹陽性肺結核の罹患リスクが高まる

<sup>1</sup>康 史朗    <sup>1</sup>小向 潤    <sup>1</sup>植田 英也    <sup>1</sup>津田 侑子  
<sup>1</sup>井村 元気    <sup>1</sup>橋本 美穂    <sup>1</sup>森本 哲生    <sup>1</sup>浅野 瑞穂  
<sup>2</sup>中山 浩二    <sup>3</sup>吉田 英樹

**要旨：**〔目的〕新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が罹患後の肺結核発病や重症度に与える影響について評価する。〔方法〕2020年1月から2021年6月までに大阪市でCOVID-19（n=46747）および菌陽性肺結核（n=583）として届出された患者を調査した。〔結果〕計7例のCOVID-19罹患後肺結核患者を認めた。年齢の中央値は73歳（範囲：53～89歳）、全例が塗抹陽性であった。COVID-19患者の肺結核罹患率は人口10万対38で大阪市の2020年塗抹陽性肺結核（人口10万対8.5）に対し罹患率比4.4（95%信頼区間：2.1～9.4）であった。COVID-19罹患後肺結核患者（n=7）はCOVID-19非罹患肺結核（n=576）と比べ塗抹菌量が多かった（ $P<0.01$ ）。追跡期間中央値は535日で、結核届出から180日での生存率は42%対73%であった（ $P=0.23$ ）。〔結論〕COVID-19罹患後の肺結核罹患率は高く、全例塗抹陽性であった。COVID-19罹患後は長引く咳等の症状に注意し結核の早期発見にとめるべきである。

**キーワード：**新型コロナウイルス感染症，結核の発病，肺結核，罹患率，塗抹検査

## 肺結核の診断時排菌数と関連する背景因子についての後方視的検討

尾下 豪人 緒方 美里 井上亜沙美 佐野 由佳  
吉岡 宏治 池上 靖彦 山岡 直樹

**要旨：**〔目的と方法〕肺結核診断時の喀痰排菌数と関連する背景因子を明らかにするため、肺結核と診断された入院患者566例を後方視的に検討した。〔結果〕年齢中央値は82歳、男性が320人（56.5%）を占めた。死亡退院例を除いた435例の入院期間は排菌数が多いほど有意に長かった。喀痰塗抹で多数排菌を示した80例ではその他の症例と比較して、75歳未満、糖尿病、喘息、間質性肺疾患、吸入ステロイド使用の割合が有意に高かった。ロジスティック回帰分析では、75歳未満、糖尿病、吸入ステロイド使用、間質性肺疾患が多数排菌の独立した危険因子であった。背景因子と結核の臨床所見の関連を検討したところ、糖尿病は空洞病変と、吸入ステロイド使用は気管支結核との関連があった。〔結論〕糖尿病、間質性肺疾患の患者が肺結核を合併した場合、多数排菌に注意が必要である。また、咳嗽や気道狭窄症状に対して吸入ステロイドの効果が乏しい場合は結核の可能性も考えて精査すべきである。

**キーワード：**肺結核、抗酸菌、糖尿病、間質性肺疾患、吸入ステロイド

## 関節リウマチに対するトシリズマブ治療中に発症した肺結核および二次性の器質化肺炎の1例

<sup>1,2</sup>伊藤 昂哉    <sup>1</sup>吉田 貴之    <sup>3</sup>網島 優    <sup>1</sup>一戸亜里香  
<sup>1</sup>大橋 洋介    <sup>1</sup>國崎 守    <sup>1</sup>濱田 邦夫    <sup>4</sup>高木 芳武  
<sup>1</sup>伊藤 昭英

**要旨**：78歳，女性。関節リウマチに対し，トシリズマブによる加療中であった。咳嗽，発熱を認め，胸部CTにて，右上葉の大葉性肺炎像，右下葉，左S<sup>4</sup>の小葉中心性の気道散布影を認め，当院紹介となった。喀痰抗酸菌塗抹陰性にて気管支鏡下に右上葉病変より経気管支肺生検施行，病理組織学的に器質化肺炎と診断した。検査後の喀痰抗酸菌塗抹にて陽性確認，結核菌群PCR陽性判明，肺結核と診断した。以上より，肺結核および二次性の器質化肺炎と診断した。副腎皮質ステロイド薬未使用下，抗結核薬のみにて病巣の改善を認めた。肺結核に続発する二次性の器質化肺炎は非常に稀であり，若干の文献的考察を加えて報告する。

**キーワード**：肺結核，器質化肺炎，関節リウマチ，トシリズマブ

## 誤嚥性肺炎として初期対応され，非結核性抗酸菌症の 検査・診断が遅れた1例

谷江 智輝   篠澤早瑛子   鎌田 勇樹

**要旨：**施設入所中の96歳男性。嘔吐後の発熱，SpO<sub>2</sub>低下を主訴に救急搬送された。エピソードと画像所見から誤嚥性肺炎と診断され，消化器内科に入院した。入院中に複数回血痰が吸引され，腎結核の既往があったことから主治医が肺結核を疑い，痰抗酸菌の塗抹検査が陽性となり，呼吸器内科にコンサルトされた。その後施行した吸引痰PCR検査と培養検査結果より，肺非結核性抗酸菌症（NTM）と診断した。高齢であり無治療経過観察とし，施設退院した。誤嚥性肺炎として初期対応され，NTMの検査・診断が遅れた教訓的症例として報告する。

**キーワード：**肺非結核性抗酸菌症，誤嚥性肺炎，認知バイアス

カナマイシン筋注製剤による皮疹の既往があり  
アミカシン硫酸塩吸入用製剤でも皮疹をきたした  
肺 *Mycobacterium avium* complex 症の 1 例

石田有莉子    萩原 恵里    村上 陽亮    長澤 遼  
丹羽 崇    奥田 良    関根 朗雅    小倉 高志

# 潜在性結核感染症の外国人留学生に対する服薬支援

— 専門学校における結核集団感染事例 —

<sup>1</sup>永石真知子    <sup>1</sup>小向   潤    <sup>2</sup>松本   健二    <sup>1</sup>橋本   美穂  
<sup>3</sup>下内   昭

## 外国生まれの小児を発端とした結核集団感染事例

<sup>1</sup>森本 哲生    <sup>2</sup>小向 潤    <sup>2</sup>津田 侑子    <sup>3</sup>松本 健二  
<sup>4</sup>山本 香織

# 肺非結核性抗酸菌症治療におけるキノロンの意義

藤田 昌樹